

令和5年度厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
総括研究報告書

効果的な集団精神療法の施行と普及および体制構築に資する研究

研究代表者：藤澤大介

慶應義塾大学

研究趣旨：本研究班の目的は、国内外における集団精神療法の位置づけを整理し、国内の実施実態を整理し、我が国で必要な領域におけるエビデンスを創出し、エビデンスに基づいた研修を整備する（資材、教育方法、普及方法）ことである。最終年度である本年度は、前年度までの研究成果を踏まえて、以下の5つを柱として研究を進めた。

課題1. 前年度までに実施した集団精神療法の全国実態調査（医療機関、精神保健福祉センター、保健所）の結果に基づいて、各施設の体制、役割、課題の差異を明らかにした。

課題2. 薬物依存・行動嗜癖の集団精神療法について、国内外のガイドラインを概観し、対象者の治療ステージや重症度の考慮、他の治療・支援との組み合わせの重要性を示した。

課題3. 集団精神療法の研修と質担保の方法論の確立

①前年度までに開発した集団認知行動療法の基礎研修プログラムを多職種医療者34名を対象に実施し、評価を行った。研修後・6か月後における自信・知識が有意に向上し、研修の有効性が示唆された。オンラインによるスーパービジョンの要点整理を行った。

②マインドフルネス療法の基礎研修プログラムを開発し、実施可能性を実証した。

課題4. 集団認知行動療法のプログラムの作成と実証研究

①うつ病の集団認知行動療法プログラムの単施設非盲検ランダム化比較検討試験を実施した。介入群17名は、介入終了時・6か月後において、うつ症状(PHQ-9)の改善、QOLの身体的領域(WHOQOL26)の向上がみられた。

②統合失調症を主対象としたリカバリー指向認知療法の教育資材を作成し、訪問看護師20名を対象に教育プログラム（ワークショップ+半年間のコンサルテーション）を実施し、実施可能性が実証され、受講者の自己効力感の向上を認めた。

課題5. 集団認知行動療法の普及啓発関連学会を通じた普及と研修の実施

関連学会において成果の共有と意見交換を行った。開発した資材は学会のホームページ等を用いて広く周知される予定である。

研究分担者

菊地俊暁（慶應義塾大学）

中川敦夫（聖マリアンナ医科大学）

中島美鈴（肥前精神医療センター）

岡田佳詠（国際医療福祉大学）

高橋章郎（東京都立大学）

岡島美朗（自治医科大学）

佐藤泰憲（慶應義塾大学）

吉永尚紀（宮崎大学）

耕野敏樹（岡山県精神医療センター）

研究協力者（施設内研究責任者）

佐渡充洋・田島美幸（慶應義塾大学）

A. 研究目的

課題 1. 全国実態調査に基づく提言 (担当: 藤澤・田島)

本研究では令和 3 年度に全国の医療機関を、令和 4 年度に精神保健福祉センター(以下、センター)と保健所を対象に実態調査を行った。本年度はそれらを比較・検討し、施設種ごとの実態と課題を明らかにする。

課題 2. 薬物依存・行動嗜癖の集団精神療法のエビデンスの整理 (担当: 吉永、中川、中島、藤澤)

前年までに実施したうつ病、不安症、統合失調症に引き続き、物質依存および行動嗜癖の診療ガイドライン等における集団精神療法の位置づけを調査・検討する。

課題 3. 集団精神療法の研修と質担保の方法論の確立

①集団認知行動療法の基礎研修プログラムの効果検証 (担当: 岡田、高橋、岡島、中島、藤澤、吉永)

国際的に認知されている認知行動療法のコンピテンシーを踏まえ、集団認知行動療法の基礎研修プログラムを実施し、効果検討を行う。

②マインドフルネス療法の教育研修の実施可能性の検討 (担当: 藤澤・佐渡)

マインドフルネス療法基礎ワークショップを開発し、実施可能性を検証する。

課題 4. 集団認知行動療法のプログラムの作成と実証研究

①うつ病の集団認知行動療法のプログラム開発とランダム化比較検討試験の実施

(担当: 菊地、藤澤、佐藤、中川)

前年度までに成人のうつ病を対象とした集団認知行動療法プログラムを開発し、パイロット研究を行った。本年度は非盲検ラ

ンダム化比較試験により有効性を検証する。

②リカバリー指向認知療法の教育資材の作成と、実施可能性試験の実施 (担当: 耕野)

リカバリー指向認知療法 (Recovery-Oriented Cognitive Therapy: CT-R)は、治療抵抗性統合失調症における陰性・陽性症状の改善、社会機能の改善のために開発された治療法である。CT-R の日本国内での実施可能性を検証する。

課題 5. 集団精神療法の普及啓発 (担当: 藤澤ほか)

関連団体などを連携し、集団精神療法の継続的な普及・啓発の取り組みを行う。

B. 研究方法

課題 1. 全国実態調査に基づく提言

医療機関対象調査 (令和 3 年度)、精神保健福祉センターと保健所対象調査 (令和 4 年度) を比較・検討した。

課題 2. 薬物依存・行動嗜癖の集団精神療法のエビデンスの整理

International Guidelines Library, Guidelines International Network (GIN) [<http://www.g-i-n.net/>]を用いて、関連ガイドラインを検索した。キーワードには、「abuse」「addiction」「misuse」を用いた。

課題 3. 集団精神療法の研修と質担保の方法論の確立

①集団認知行動療法の基礎研修プログラムの効果検証

34 人の多職種医療従事者を対象に、集団認知行動療法の基礎研修プログラムを提供し、研修前・後・6 か月後の知識、実施の自信、実施状況を測定した。

②マインドフルネス療法の教育研修の実施可能性の検討

マインドフルネス療法の研修プログラム

を開発し、医療従事者 19 人を対象に実施可能性の検証を行った。

課題 4. 集団認知行動療法のプログラムの作成と実証研究

①うつ病の集団認知行動療法のプログラム開発とランダム化比較検討試験の実施

慶應義塾大学において、うつ病外来患者 34 人（介入群 17 人対照群 16 人）を対象にうつ病の集団認知行動療法を提供し、うつ症状、QOL、満足度などを評価した。

②リカバリー指向認知療法（CT-R）の教育資料の作成と、実施可能性試験の実施

岡山県精神科医療センターにおいて、訪問看護師 20 人を対象に CT-R の研修を提供し、実施可能性を検証した。

課題 5. 集団精神療法の普及啓発

関係学会との連携を試みた。

（倫理面への配慮）

各研究の研究責任者の所属施設の研究倫理委員会の承認を得て研究を実施した（慶應義塾大学、国際医療福祉大学、岡山県精神科医療センター）。

C. 研究結果

課題 1. 全国実態調査に基づく提言

回答施設における集団精神療法の実施率は、精神科医療機関 27.6%、精神保健福祉センター 93.1%、保健所 21.3%であった。施設種ごとに主対象疾患が異なった。医療機関では患者本人対象、センター・保健所では家族対象のプログラムが多かった。用いる手法は、心理教育、認知行動療法、社会生活スキルトレーニングが共通して多かった。

医療機関と保健所は半数以上が「集団精神療法が（どちらかというと）充足していない」と回答し、センターでは 7 割が「（どちらかというと）充足している」と回答した。

課題には、実施にかかる労力・コストが報酬に見合わない、人員不足、スキルを持った職員がいない等があがった。

課題 2. 薬物依存・行動嗜癖の集団精神療法のエビデンスの整理

6ヶ国のガイドラインが同定された。効果的な集団療法には、対象者集団の治療ステージや重症度、集団療法と通常ケアの併用、他の治療や支援との組み合わせを考慮する必要があることが示された。

課題 3. 集団精神療法の研修と質担保の方法論の確立

①集団認知行動療法の基礎研修プログラムの効果検証

集団認知行動療法の研修プログラムを受講した多職種の医療従事者（医師・看護師・心理師・作業療法士等）34 人において、研修後・6 か月後における知識と実施スキルの自信の向上を認めた。

②マインドフルネス療法の教育研修の実施可能性の検討

研究組み入れ率は 95%、脱落率 0%、プログラム参加率 100%であり、十分な実施可能性が示された。研修前後で、マインドフルネスに関連する複数評価尺度において有意な向上を認めた。

課題 4. 集団認知行動療法のプログラムの作成と実証研究

①うつ病の集団認知行動療法のプログラム開発とランダム化比較検討試験の実施

介入群 17 名では、プログラム終了時にうつ症状の改善がみられ、プログラム終了後 6 か月も維持されていた。QOL の身体的領域（WHOQOL26）も介入群は向上がみられた。介入への満足度（CSQ-8J）は、平均点が 32 点満点中 25 点と高評価であった。プログラム実施にあたって施行者が用いるイ

ンテークシート、治療計画書、セッション記録シートが作成された。

②リカバリー指向認知療法の教育資材の作成と、実施可能性試験の実施

研究対象者全員が研修受講を完遂した。研修後に自己効力感の向上を認め、介入のアクセシビリティ、適正、実現可能性(AIM、IAM、FIM)において好評価を認めた。

課題5. 集団精神療法の普及啓発

日本認知療法・認知行動療法学会、および、日本集団精神療法学会において、本研究の成果が共有された。

D. 考察

課題1. 全国実態調査に基づく提言

精神科医療機関、精神保健福祉センター、保健所では、集団精神療法の対象や内容、コスト算定方法等の実施体制、地域での役割が異なることが明らかになった。

課題2. 薬物依存・行動嗜癖の集団精神療法のエビデンスの整理

6ヶ国のガイドラインのレビューを通じ、薬物依存・行動嗜癖における集団療法の効果的な要素が抽出された。

課題3. 集団精神療法の研修と質担保の方法論の確立

①集団認知行動療法の基礎研修プログラムが開発され、効果が実証された。

②マインドフルネス療法の教育研修の実施可能性実証された。

課題4. 集団認知行動療法のプログラムの作成と実証研究

①うつ病の集団認知行動療法のランダム化比較検討試験が完遂され、介入群においてうつ症状の改善とQOLの向上を認めた。

②リカバリー指向認知療法の教育資材が作

成され実施可能性が示された。

課題5. 集団精神療法の普及啓発

関連学会との協働が行われた。

E. 結論

国内外におけるうつ病、不安症、精神病性障害、物質依存・行動嗜癖に関する集団精神療法の位置づけ、および、全国の医療機関、保険行政機関における集団精神療法の実施実態と課題が明らかになり、今後の施策への活用が期待される。

本研究で創出されたエビデンス（うつ病の集団認知行動療法、統合失調症を主対象とするリカバリー指向認知療法）は、国内のガイドラインや診療報酬収載に向けた資料となると期待される。

本研究で開発された資材（うつ病に対する集団認知行動療法、統合失調症を主たる対象とするリカバリー指向認知療法（CT-R））は、それぞれの実践に活用されると期待される。

効果的な集団精神療法の実施には、研修方法の確立が重要である。本研究で開発された、集団認知行動療法の基本研修プログラム、リカバリー指向認知療法の研修プログラム、マインドフルネス療法の研修プログラムはそれぞれ実施可能性が立証され、前後比較による有意な効果が認められていることから、今後、広く実施者の育成(研修)に活用されていくと期待される。

本研究の成果は、既に、日本認知療法・認知行動療法学会や日本集団精神療法学会で共有されているが、同学会をはじめとする関連学会との協働により、広く普及に役立てられていくと期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

(国内)

1. 田島美幸, 藤澤大介, 田村法子, 近藤裕美子, 原祐子, 大嶋伸雄, 岡島美朗, 岡田佳詠, 菊地俊暁, 耕野敏樹, 佐藤泰憲, 高橋章郎, 中川敦夫, 中島美鈴, 吉永尚紀, 大野裕. 精神科医療機関における集団精神療法の実施状況に関する全国調査, 精神療法 (2024.3.19 投稿受理)
2. 丹野義彦, 中島美鈴, 藤澤大介, 久我弘典, 伊藤正哉, 杉山崇, 菊池俊暁, 古川洋和, 古村健, 中尾智博, 田中増郎, 吉橋実里. 公認心理師のおこなう認知行動療法の現状と期待: 日本認知行動療法学会との合同企画. 認知療法研究 16(2),155-163, 2023
3. 藤澤大介. ベックの認知療法における認知と行動. 精神療法 49(6), 791-795, 2023
4. 厚生労働科学研究: 効果的な集団精神療法の施行と普及および体制構築に資する研究班 (藤澤大介, 田島美幸, 岡田佳詠, 大嶋伸雄, 岡島美朗, 菊地俊暁, 耕野敏樹, 佐藤泰憲, 高橋章郎, 中川敦夫, 中島美鈴, 吉永尚紀, 近藤裕美子, 田村法子, 大野裕). 本邦における集団精神療法の現状と展望. 最新精神医学 28(3), 225-230, 2023
5. 岡島美朗, 藤澤大介. 集団認知行動療法: グループとしての特徴と治療の実際. 集団精神療法 39(1), 47-52, 2023
6. 藤澤大介. 認知行動療法と治療同盟. 精神科 43(2), 235-240, 2023
7. 藤澤大介. 老年期のメンタルヘルス—人生 100 年時代のこころの健康を守る: 認知行動療法. カレントセラピー 41(1), 41-45, 2023
8. 菊地俊暁. AI によるメンタルヘルス対応: 日本臨牀, 2023-10, Vol.81 (10), p.1499-1503
9. 菊地俊暁. 臨床においてプラセボ反応を最大限活かすには: 臨床精神薬理, 2023-09, Vol.26 (9), p.911-916
10. 菊地俊暁. 医師国家試験から語る精神・神経疾患(vol.8)抗うつ薬の情動面での副作用: Brain and nerve, 2023-08, Vol.75 (8), p.977-980
11. 菊地俊暁. 多職種連携における薬剤師への期待と認知行動療法の活用について: 医師の立場から: 認知療法研究, 2023-08, Vol.16 (2), p.134-136
12. 菊地俊暁. 薬物療法における治療同盟とは: 精神科, 2023, Vol.43 (2), p.231-234
13. 菊地俊暁. うつ病に対して認知行動療法と薬物療法を併用する際の効果と注意点: 臨床精神薬理, 2023, Vol.26 (5), p.467-472
14. 菊地俊暁. うつ病の性差から見た治療の最適化を考える うつ・不安・不眠を乗り越えるには: 女性心身医学, 2023, Vol.27 (3), p.234
15. 菊地俊暁. デジタル精神医療は心のケアにどのように役立つのか: 地域での取り組みを中心に. 認知療法研究, 2023, Vol.16 (1), p.48-50
16. 菊地俊暁. AI を用いた認知行動療法, 臨床精神薬理, 2023, Vol.26 (3), p.305-310

17. **岡田佳詠**. 認知行動療法の理論と実際, 正光会医療研究会誌, 20 (1), 1-8, 2023.
 18. **中島美鈴**. 発達障害に伴う実行機能障害への対応はどのようなものがありますか. いま, 知っておきたい発達障害 Q&A98. 精神医学. 2023; 65(5): 784-787.
 19. **中島美鈴**. 大人の注意欠如・多動症の認知行動療法. 総合病院精神医学. (in press)
 20. 幸田るみ子、**藤澤大介**. 死別後悲嘆に対する短縮版ミーニング・センタード・サイコセラピーの試み. 精神療法 49(3), 395-405, 2023
 21. **耕野敏樹**. 「リカバリーを目指す認知療法がもたらす精神科入院治療における新たな視点」最新精神医学、令和5年11月、28巻6号493～500.
- (国外)
1. **Nakashima M**, Matsunaga M, Otani M, Kuga H, **Fujisawa D**. Development and Preliminary Validation of the Group Cognitive Therapy Scale to Measure Therapist Competence. *Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports* 2(3) e128. 2023. <https://doi.org/10.1002/pcn5.128>
 2. Amano M, Katayama N, Umeda S, Terasawa Y, Tabuchi H, **Kikuchi T**, Abe T, Mimura M, **Nakagawa A**. The effect of cognitive behavioral therapy on future thinking in patients with major depressive disorder: A randomized controlled trial. *Frontiers in Psychiatry*. 2023;14:997154.
 3. **Kikuchi T***, Iga J, Oosawa M, Hoshino T, Moriguchi Y, Izutsu M. A web-based survey on the occurrence of emotional blunting in patients with major depressive disorder in Japan: Patient perceptions and attitudes. *Neuropsychopharmacology Reports*, in press.
 4. Kato M, **Kikuchi T**, Watanabe K, Sumiyoshi T, Moriguchi Y, Oudin Åström D, Christensen MC. Goal Attainment Scaling for Depression: Validation of the Japanese GAS-D Tool in Patients with Major Depressive Disorder. *Neuropsychiatr Dis Treat*. 2024 Jan 16;20:49-60. doi: 10.2147/NDT.S441382. eCollection 2024.
 5. Kishimoto T, Kinoshita S, Kitazawa M, Hishimoto A, Asami T, Suda A, Bun S, **Kikuchi T**, Sado M, Takamiya A, Mimura M, Sato Y, Takemura R, Nagashima K, Nakamae T, Abe Y, Kanazawa T, Kawabata Y, Tomita H, Abe K, Hongo S, Kimura H, Sato A, Kida H, Sakuma K, Funayama M, Sugiyama N, Hino K, Amagai T, Takamiya M, Kodama H, Goto K, Fujiwara S, Kaiya H, Nagao K; J-PROTECT collaborators. Live two-way video versus face-to-face treatment for depression, anxiety, and obsessive-compulsive disorder: A 24-week randomized controlled trial. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2023 Dec 15. doi: 10.1111/pcn.13618. Online ahead of print. PMID: 38102849
 6. Tokumitsu K, Sugawara N, Adachi N, Kubota Y, Watanabe Y, Miki K, Azekawa T, Edagawa K, Katsumoto E, Hongo S, Goto E, Ueda H, Kato M, Yoshimura R, **Nakagawa A**, **Kikuchi T**, Tsuboi T, Watanabe K, Yasui-Furukori N. Real-

- world predictors of divorce among outpatients with bipolar disorder: sex differences and clinical implications. *Ann Gen Psychiatry*. 2023 Dec 12;22(1):52. doi: 10.1186/s12991-023-00487-6. PMID: 38087387
7. Kato M, **Kikuchi T**, Watanabe K, Sumiyoshi T, Moriguchi Y, Åström DO, Christensen MC. Assessing Reliability and Validity of the Oxford Depression Questionnaire (ODQ) in a Japanese Clinical Population. *Neuropsychiatr Dis Treat*. 2023 Nov 8;19:2401-2412. doi: 10.2147/NDT.S428443. eCollection 2023. PMID: 38029050
 8. Adachi N, Kubota Y, Goto E, Watanabe K, Yoshimura R, Tsuboi T, Yasui-Furukori N, Kato M, Hongo S, Azekawa T, Katsumoto E, Edagawa K, **Nakagawa A**, **Kikuchi T**, Ueda H, Miki K. Costs of psychotropics for outpatients with bipolar disorder in Japan; the MUSUBI 2016 survey. *Ann Med*. 2023 Dec;55(1):2224047. doi: 10.1080/07853890.2023.2224047. PMID: 37322994
 9. Takano C, Kato M, Adachi N, Kubota Y, Azekawa T, Ueda H, Edagawa K, Katsumoto E, Goto E, Hongo S, Miki K, Tsuboi T, Yasui-Furukori N, **Nakagawa A**, **Kikuchi T**, Watanabe K, Kinoshita T, Yoshimura R. Clinical characteristics and prescriptions associated with a 2-year course of rapid cycling and euthymia in bipolar disorder: a multicenter treatment survey for bipolar disorder in psychiatric clinics. *Front Psychiatry*. 2023 May 17;14:1183782. doi: 10.3389/fpsyt.2023.1183782. eCollection 2023. PMID: 37265558
 10. Aoki Y, Takaesu Y, Inada K, Yamada H, Muraio T, **Kikuchi T**, Takeshima M, Tani M, Mishima K, Otsubo T. Development and acceptability of a decision aid for anxiety disorder considering discontinuation of benzodiazepine anxiolytic. *Front Psychiatry*. 2023 May 12;14:1083568. doi: 10.3389/fpsyt.2023.1083568. eCollection 2023. PMID: 37252154
 11. Katayama N, **Nakagawa A**, Umeda S, Terasawa Y, Shinagawa K, **Kikuchi T**, Tabuchi H, Abe T, Mimura M. Functional connectivity changes between frontopolar cortex and nucleus accumbens following cognitive behavioral therapy in major depression: A randomized clinical trial. *Psychiatry Res Neuroimaging*. 2023 Apr 11;332:111643. doi: 10.1016/j.pscychresns.2023.111643. Online ahead of print.
 12. Kudo S, Uchida T, Nishida H, Takamiya A, Kikuchi T, Yamagata B, Mimura M, Hirano J. Clinical characteristics and potential association to Parkinson's disease and dementia with Lewy bodies in patients with major depressive disorder who received maintenance electroconvulsive therapy: a retrospective chart review study. *BMC Psychiatry*. 2023 Apr 11;23(1):243. doi: 10.1186/s12888-023-04743-7.
 13. Tokumitsu K, Yasui-Furukori N, Adachi N, Kubota Y, Watanabe Y, Miki K, Azekawa T,

- Edagawa K, Katsumoto E, Hongo S, Goto E, Ueda H, Kato M, **Nakagawa A**, **Kikuchi T**, Tsuboi T, Watanabe K, Shimoda K, Yoshimura R. Predictors of psychiatric hospitalization among outpatients with bipolar disorder in the real-world clinical setting. *Front Psychiatry*. 2023 Mar 16;14:1078045. doi: 10.3389/fpsyt.2023.1078045. eCollection 2023.
14. Kurita K, Obata T, Sutoh C, Matsuzawa D, **Yoshinaga N**, Kershaw J, Chhatkuli RB, Ota J, Shimizu E, Hirano Y. Individual cognitive therapy reduces frontal-thalamic resting-state functional connectivity in social anxiety disorder. *Frontiers in Psychiatry*. 2023;14:1233564.
15. Ishigaki T, Shimada T, Tanoue H, **Yoshinaga N**, Nishiguchi Y, Ishikawa R, Hosono M. Reliability and validity of the NBS for delusions and overvalued ideas in chronic schizophrenia: analysis of a preliminary pilot study. *Frontiers in Psychiatry*. 2023;14: 1298429.
16. Asakura S, **Yoshinaga N**, Yamada H, Fujii Y, Mitsui N, Kanai Y, Inoue T, Shimizu E. Japanese Society of Anxiety and Related Disorders/Japanese Society of Neuropsychopharmacology: Clinical Practice Guideline for Social Anxiety Disorder (2021). *Neuropsychopharmacology Reports*. 2023; 43(3): 288-309.
17. Tanoue H, Hayashi Y, Shikuri Y, **Yoshinaga N**. Cognitive behavioral therapy for mood and anxiety disorders delivered by mental health nurses: Outcomes and predictors of response in a real-world outpatient care setting. *Journal of International Nursing Research*. 2023; 2(2): e2022-0023.
18. **Yoshinaga N**, Thew GR, Hayashi Y, Matsuoka J, Tanoue H, Takanashi R, Araki M, Kanai Y, Smith A, Grant SHL, Clark DM. Preliminary Evaluation of Translated and Culturally Adapted Internet-Delivered Cognitive Therapy for Social Anxiety Disorder: Multicenter, Single-Arm Trial in Japan. *JMIR Formative Research*. 2023;7: e45136.

2. 学会発表

(国内)

1. **田島美幸**, **藤澤大介**. 精神科医療・地域保健における集団精神療法の実態と課題, 大会企画シンポジウム1 集団認知行動療法の普及に向けて: 全国 の状況と取り組み, 第23回日本認知療法・認知行動療法学会, 2023.12.1, 広島
2. 熊谷直樹, 辻本哲士, **田島美幸**, **藤澤大介**. 精神保健福祉センターにおける集団精神療法の実施状況と課題, 大会企画シンポジウム1 集団認知行動療法の普及に向けて: 全国の状況と取り組み, 第23回日本認知療法・認知行動療法学会, 2023.12.1, 広島
3. **藤澤大介**, **田島美幸**, 田村法子, 近藤裕美子, 原祐子, 熊谷直樹, 辻本哲士, 内田勝彦, 清古愛弓. 全国の保健・行政機関における集団精神療法の実態と課題に関する調査. 第23回日本認知療法・認知行動療法学会(広島) 2023.12.1-

- 3
4. **藤澤大介**、**岡田佳詠**、天野敏江、根本友見、**中島美鈴**、大嶋伸雄、**高橋章郎**、**岡島美朗**、田村法子、**吉永尚紀**、丹野義彦. 集団認知行動療法実践者養成プログラムの開発. 第 23 回日本認知療法・認知行動療法学会 (広島) 2023.12.1-3
 5. **藤澤大介**. 集団認知行動療法の普及と発展に向けて (シンポジウム: 新しい時代の集団認知行動療法). 日本集団精神療法学会第 41 回学術集会. 2024 年 3 月 16-17 日. 兵庫県明石市
 6. **藤澤大介**. マインドフルネス概論・演習. 日本生殖心理学会・日本がん・生殖医療学会認定資格養成講座. 2023.12.16
 7. **藤澤大介**. 服薬指導に活かす認知行動療法: エビデンスと実践スキル演習. 2023 年度第 1 回日本精神薬学会講習会 (オンライン) 2023.12.10
 8. **藤澤大介**. 認知行動療法の共通基盤: 従来型の概念化と強みに基づいた概念化. 第 23 回日本認知療法・認知行動療法学会 (広島) 2023.12.1-3
 9. **藤澤大介**. オンラインによるスーパービジョンの勘どころ: 厚労省認知行動療法研修事業の経験から. 第 23 回日本認知療法・認知行動療法学会 (広島) 2023.12.1-3
 10. **藤澤大介**、**岡田佳詠**. 集団認知行動療法の普及に向けて: 全国状況と取り組み. 第 23 回日本認知療法・認知行動療法学会 (広島) 2023.12.1-3
 11. **藤澤大介**. 人生の意味に焦点をあてた精神療法: Meaning-centered psychotherapy. 第 36 回日本総合病院精神医学会. 2023.11.17-18. 仙台
 12. **藤澤大介**. 木を見て森も見る: 集団認知行動療法における個人・集団・チームの見立て. 第 14 回集団認知行動療法研究会 学術総会. 2023 年 10 月 22 日 東京
 13. **藤澤大介**. 認知行動療法の普及と実践者の育成. 一般社団法人公認心理師の会 2023 年度年次総会. 東京 2023.8.20
 14. **藤澤大介**. 個人・集団認知行動療法の均てん化に向けた基礎調査とマニュアル整備. 第 119 回日本精神神経学会 (横浜) 2023.6.22-24
 15. **藤澤大介**. マインドフルネス心理療法の概略と展開. 第 119 回日本精神神経学会 (横浜) 2023.6.22-24
 16. **藤澤大介**. マインドフルネス認知療法: エビデンスと概略. 第 6 回日本うつ病リワーク協会年次大会 2023.5.27 (千葉県千葉市)
 17. **藤澤大介**. 身体疾患の不安・不眠への精神療法: 認知行動療法、マインドフルネス、人生の意味. 第 15 回日本不安症学会. 2023 年 5 月 19 日~20 日 (東京、大田区産業プラザ PiO)
 18. 安達慎也, **岡田佳詠**, 根本友見: 思春期のうつ病患者への看護師による認知行動療法の効果-セルフコントロール力の向上に焦点をあてて-第 23 回日本認知療法・認知行動療法学会プログラム抄録集、256、2023
 19. **岡田佳詠**, **吉永尚紀**, 石川博康, 白石裕子, 齋藤嘉宏, 田上博喜, 上等里江. 簡易型の認知行動療法の看護場面での実践. シンポジウム (大会企画シンポ

- ジウム 10 : SY10) . 第 23 回日本認知療法・認知行動療法学会. 広島県医師会館, 広島. 2023/12/02.
20. 吉永尚紀. 社交不安症 (対人恐怖症) に対する認知行動療法のエビデンス構築と普及. シンポジウム (異分野融合と社会実装 3 「健康科学からの発信」) . 第 7 回黒潮カンファレンス. ANA ホリデイ・インリゾート宮崎 (宮崎) . 2023/07/23.
 21. 吉永尚紀. 社交不安症に対する認知療法・認知行動療法の普及と実装に向けた取り組み. シンポジウム (シンポジウム 2 : わが国における認知行動療法の普及・実装 : 最新の取り組みとその課題) . 第 20 回日本うつ病学会総会. 仙台国際センター展示棟 (宮城) . 2023/07/21.
 22. 吉永尚紀. Clark & Wells (1995) にもとづく社交不安症の認知療法 Up to Date. シンポジウム (シンポジウム 4 : 不安症・不安症状に対する様々な心理アプローチ) . 第 15 回日本不安症学会学術大会. 大田区産業プラザ PiO (東京) . 2023/05/20.
 23. 中島美鈴. よくない行動を減らすための司法矯正分野における認知行動療法～全国初・福岡県大麻使用少年用プログラム F-CAN の作成に至るまで～. 教育講演. 第 23 回認知療法・認知行動療法学会広島医師会館 (広島) . 2023/12/02.
 24. オーガナイザー, 松本 一記, 話題提供, 松本 一記, 濱谷 沙世, 角南なおみ, 前野 明子, 中島美鈴. 指定討論, 肥後祥治, 井上 雅彦. (シンポジウム 2 令和日本の「いま, ここ」で ADHD を持つ子どもと大人の支援ニーズを念頭に「未来」の認知行動療法を考える) ADHD を持つ成人の時間管理 習慣化アプリの効果. 第 23 回日本認知療法・認知行動療法学会 広島医師会館 (広島) . 2023/12/01.
 25. 中島美鈴, 前田エミ, 牧野加寿美, 吉原翔太, 要齊. 成人期の注意欠如・多動症患者の集団認知行動療法の長期的効果とその後の APP 介入効果検討. 日本認知・行動療法学会第 49 回大会 北海道大学 (札幌) . 2023/10/08.
 26. 耕野敏樹, 佐藤康治郎. 一般演題 5 「単科精神科病院におけるリカバリーを目指す認知療法 (Recovery-Oriented Cognitive Therapy; CT-R) 普及への取り組み」. 第 119 回日本精神神経学会. 2023 年 6 月 22 ～ 24 日. パシフィコ横浜.
 27. 耕野敏樹. シンポジウム 20 「リカバリーを目指す認知療法がもたらす新たな精神科医療の展望」. 第 119 回日本精神神経学会. 2023 年 6 月 22 ～ 24 日. パシフィコ横浜.
 28. 耕野敏樹. 入院医療における CT-R の実践について (岡山県精神科医療センターでの取り組みから) . 第 23 回日本認知療法・認知行動療法学会 大会企画シンポジウム 「リカバリーを目指す認知療法の日本における実践」. 2023 年 12 月 1 日～ 3 日. 広島県医師会館
 29. 久我弘典, 菊池安希子, 徳山明広, 耕野敏樹, 大野裕, 片柳章子, 梅本育恵, 三田村康衣, 林竜也. ワークショップ 「リカバリーを目指す認知療法」. 第 23 回日本認知療法・認知行動療法学会

会. 2023年12月1日～3日. 広島県医師会館.

30. **耕野敏樹**. 教育講演1「リカバリーを目指す認知療法ーリカバリームーブメントと認知行動療法のコラボレーションがもたらす新たな視点ー」日本精神障害者リハビリテーション学会第30回岡山大会. 2023年12月2～3日. 倉敷市芸文館

(国外)

1. Shimizu K, **Tajima M**, Tamura N, Kondo Y, **Okada Y**, **Kikuchi T**, **Fujisawa D**. The current practice of group psychotherapy in Japan: a nationwide survey. 10th World Congress of Cognitive and Behavioural Therapies, 2023.6.1-4, Seoul, Korea
2. **Yoshie OKADA**, Toshie AMANO, Tomomi NEMOTO : Effects of an educational training program on low-intensity cognitive behavior therapy for nurses in Japan, 10th World Congress of Cognitive and Behavioral Therapies, 2023
3. **Nakashima M**, **Fujisawa D**. A systematic review of scales for assessing the quality of group cognitive-behavioral therapy therapists. 10th World Congress of Cognitive and Behavior Therapies. and Behavioral Therapies. COEX Convention Centre (Seoul, South Korea). 2023/06/01.
4. **Nakashima M**, Maeda E, Makino K, Kaname H. Factors Affecting the Effect of Group Cognitive Behavioral Therapy for Adults with Attention Deficit/Hyperactivity Disorder. 10th World Congress of Cognitive and Behavior Therapies. COEX Convention Centre

(Seoul, South Korea). 2023/06/01.

5. **Nakashima M**, Kodama N, Mori H, Shimane T. Development of juvenile cannabis relapse prevention program (F-CAN) focusing on communication skills with familiar people. 10th World Congress of Cognitive and Behavior Therapies. COEX Convention Centre (Seoul, South Korea). 2023/06/01.
6. **Nakashima M**, Maeda E, Makino K, Yoshihara S, Kaname H. Long-Term Effects of Group Cognitive Behavioral Therapy for Adult Patients with Attention Deficit/Hyperactivity Disorder and Subsequent APP Intervention. 10th World Congress of Cognitive and Behavior Therapies. COEX Convention Centre (Seoul, South Korea). 2023/06/01.
7. **Yoshinaga N**. Transporting UK-Developed Internet-Delivered Cognitive Therapy for Social Anxiety Disorder (iCT-SAD) to Japan. Symposium (Symposium 08: Experiences and Advancements in the Dissemination of Internet-Delivered Cognitive Therapy for Social Anxiety Disorder (iCT-SAD)). 10th World Congress of Cognitive and Behavioral Therapies. COEX Convention Centre (Seoul, South Korea). 2023/06/02.

H. 知的所有権の取得状況(予定も含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし